

## 巻頭言

### わかやま子ども学総合研究センタージャーナル 第4号発刊に寄せて



和歌山信愛大学教育学部教授

わかやま子ども学総合研究センター長 桑原 義登

令和元年度に開設した和歌山信愛大学は4年の年月を重ね、はじめて82名の学生を教育や福祉等の現場に送り出すことになりました。「わかやま子ども学総合研究センター（以下、当センターという）」も設立して4年を迎え、ここに「ジャーナル第4号」を発刊させていただきます。卒業生の皆様にも、現場の課題を大学に伝えていただき一緒に研究する場として活用いただければ幸いです。

本学新設にあたり、和歌山県と和歌山市などとの連携協定で「学校などの教育現場や福祉現場の課題について相談に応じて研究する役割を果たして欲しい。」という要請がありました。そこで、子どもに関する総合的な研究機関として多角的に調査研究及び実践を行い、地域社会への知的還元と支援を多様に展開して公共の利益に貢献することを目的として、当センターが発足しています。当センターの特色は教職員だけでなく、学生や教育・福祉の現場での業務に従事している特別研究会員や地域の関係機関とともに地域に根ざした研究活動を行っていくことであると思っています。特別研究会員も現在まで19名の登録をいただき、このジャーナルにもその研究成果を報告していただいています。

3月4日には「和歌山の子ども現状と課題について考える～教育、福祉、地域・家庭が連携した支援の在り方を考える～」と題した公開研究集会を開催して、各現場からの報告をいただき、学生も一緒に学ばせていただきました。

このジャーナル4号では各分野からの研究活動の成果を報告いただいています。和歌山信愛女子短期大学からの投稿もいただき、連携の輪が広がっています。

今後、こども家庭庁が発足し、地方でも子どもを中心に据えた包括的な取り組みが展開されていく中で、当センターの果たす役割も大きくなっていくものと考えています。今後とも、和歌山信愛大学並びに当センターへのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。